

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201280		
法人名	社会福祉法人 葉港会		
事業所名	グループホーム 春日スプリングガーデン		
所在地	長崎県佐世保市春日町716-8		
自己評価作成日	平成 29年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 29年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から近い、国道から少し入った斜面地に立地し、交通アクセスも良く、なおかつ自然にも囲まれて、静かな環境が保たれていますので、ゆったりとした個々の時間を過ごすことができるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護職員は、勤務年数が長い方が多数在籍されており、様々な介助の場面において多面的な支援につながっているものと思われる。職員同士の意思疎通も円滑に行われており、入居者個々に応じた支援に努められている様子が窺える。当ホームは、閑静な住宅地の中にあり、近隣には民家が散在し、一般家庭と同じような雰囲気の中で生活ができています。又、駐車場も広く、ホーム入口まで車の乗り入れができる為、家族からも来訪しやすいと好評である。隣接の小規模多機能ホームや支援ハウスと合同で行事を開催するなど、系列施設と共に協力した支援体制が構築されており、生き生きとした入居者の姿が窺えるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に入居者が地域の中で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支えるために理念をつくりあげている。玄関に理念を掲示しており、職員はその理念を朝礼時に全員で復唱し、意識して業務にあたっています。	理念の意味することを明文化し、朝礼時の唱和及び新人研修等で想いを深めている。理念は心の問題との認識を踏まえ、入居者個々の状態や場面に応じ、寄り添いながら日々の支援に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成 29年 1月 10日	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に入居者が地域の中で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支えるために理念をつくりあげている。玄関に理念を掲示しており、職員はその理念を朝礼時に全員で復唱し、意識して業務にあたっています。	町内会に加入し、地域の一員として各種行事に参加されている。県社会福祉協議会の依頼で副理事長が地域内の中学校に介護についての講演会に出向したり、児童センターの子供達の訪問受入れで入居者との触れ合いの機会を設ける等、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイト養成研修や認知症ケア専門士等の資格を積極的に取得し、認知症の方への理解を深め、地域の人々へ理解していただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。現状報告をしながら参加者の意見を伺いサービス向上に向けて前向きに取り組んでいます。	全家族へ案内状を発送されており、会議欠席者には議事録を郵送されている。包括支援センターから詐欺の話題が出たり、地域住民代表から災害時の避難場所の話題が出る等、双方向の意見交換がなされている。	長いスパンで捉えると、議題は年間計画でテーマを決め、テーマに沿った講師依頼等を行うことで、より会議活性化に繋がるものと考えます。ご検討の程お願いします。
5	(4)	○市町村との連携 平成 29年 2月 27日	地域包括支援センターや他の高齢者支援センター等とも定期的に連絡を取り合っている。地域包括支援センターと同行訪問を行ったり、地域ケア会議等にも出席しています。	包括支援センターや市長寿社会課を交え、問題のある住民の取組みについて、協議し検討された結果、ホームへ入居になる等、連携した取組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束の研修の終了証マニュアルを作り、職員へ伝えていきます。常に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束マニュアルを作成されており、職員研修も定期的実施されている。入居者家族より転倒の恐れがあり、身体拘束の希望があったが、ホームより見守り支援の説明を行い、理解を得て入居に至った事例も窺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体的だけでなく、精神的虐待にも注意し、研修にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修に行き、職員全体で情報を共有するように社内研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、ご家族の方が理解・納得されるまで説明を行い、同意を得た上で、署名と捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあい箱設置により、お客様やご家族の意見や苦情を書くことができ、毎年一回の外部評価によりアンケートをとった結果を運営推進委員会で話し合っています。	苦情箱は玄関に設置されている。各種苦情相談窓口については契約時に説明されている。入居者から居室移動の希望に対し、模様替えなどで気分転換を図ったり、家族から金銭の相談があり、貯金について話し合う等、意見を聞くよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった場合には、随時報告を受け、可能な限り反映させています。	入居者の状態変化があった事例では、職員への過度な負担増となる恐れを考慮し、担当者会議を開催して職員体制の見直しを図るなど、できる限り職員意見を汲み取るよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備を行い、各自が向上心を持って働けるように直接労務士さんと相談し、職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、可能な限り外部への研修への参加を推奨しています。新人研修、全職員研修は職員互助会とも協議しながら適宜実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として外部とのイベントに参加し、交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や電話での話し合いを重ねたり、施設見学の折に家族の不安や思いを受け止める努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や電話での話し合いを重ねたり、施設見学の折に家族の不安や思いを受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心から信頼していただくように努め、他のサービス利用も視野に入れながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム専用スペースに閉じこもらず、レストランやソファで他のお客様や、職員を交えて団欒の場を提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし、出来るだけご家族と共にお客様のパートナーとして良好な関係を作るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも続けてきたご家族との散歩や、近所へ顔なじみの店へ買い物に職員へ行く等を勧めています。	入所時の情報以外で把握した情報は、各種ノートや日誌に記入し、職員間で共有すると共にミーティング時に伝達されていることが窺える。家族行事参加の為などの外出する機会があり、必要に応じ車椅子の貸出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホーム入居者同士の関係は良好で、揉め事もなく、ゆったりと過ごされています。職員もお客様とテレビを見たり、お茶を飲んだりしてお客様同士の関係が円滑になるように働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度関わったお客様なので、お付き合いを大切にし、引き続き相談や遊びに来てもらえるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を大切にし、要望に沿った支援をするようにしています。日々の変化に注意し、ご家族からも情報を得ることによりお客様の意向を把握出来るように努めています。	入居者個々の性格に合わせ、傾聴したり、職員から積極的に話しかけたり、入居間もない不安定な入居者には寄添いながら思いを汲み取って支援するよう努められている。入居者個々の思いは、申送りノートや個人記録において記録し、職員間で共有するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご本人・ご家族から得た情報を基にして、ご本人のご希望に沿ってその人らしく生活できるようにしています。お客様やご家族等から少しずつ情報を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、入居者一人一人の一日の様子を申し送り等の中で把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から意見を聞いて担当者会議を開き、全員でそれぞれのアイデアを出し合い、介護計画に反映しています。	事前に本人や家族から意見を聞き取り、職員全員が参加した担当者会議を開催し、介護計画の立案につなげられている。介護計画が日々の支援に連動するよう、申送りノートを活用されているが、今後タブレットを活用する方法を検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に実施記録とケース記録には状態変化を記録しています。状態の変化については情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の要望に合わせ、相談や、話し合いを行い、柔軟に対応しています。訪問美容等もご利用できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さん等と定期的に情報交換を行ない、消防士の方を呼んで消防訓練を行い、緊急時に備えています。安心して過ごせるように心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、お客様やご家族の希望されるかかりつけ医があればご家族と協力し、通院介助も行なっています。必要時には訪問診療を受けています。	提携医療機関は週に一度、皮膚科は月一度、歯科は随時に往診があり、受診時は家族へ連絡し、職員と同行する機会もある。日頃の体調管理は看護師と職員が行い、状態急変時は提携医へ指示を仰ぎ対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化や健康管理に応じた支援が行なえるように配慮しています。近隣の協力医や看護師との連携も取れており、気軽に相談できる体制が確保されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員がお見舞いに行くとともに、状態把握を行い、医療機関との連携が図れるように配慮しています。また、ご家族とも話し合いながら退院の支援を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の意向を大事にしながら、職員同士で終末期について考え、協力医とも相談できる体制を整えています。	看取りの指針及びその同意書は作成済みで、入居契約時に家族等より同意書を得られている。主治医の指示で終末期に入った時点で再度家族の意向を確認されている。現在、看取り経験がない職員も多く、管理者は、今後、研修の必要性を感じられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、急変時に備えて研修を行い、円滑な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な消防訓練により、災害時の対応が円滑にできるように努めています。	毎年隣接の小規模多機能事業所と合同で避難訓練を実施されているが、地域住民、消防団の参加はない。備蓄は外注業者へ依頼されており、今後法人独自での備蓄も検討中である。	避難訓練では役割が決定しており、それに沿った行動ができますが、実際の災害時は職員の役割りが訓練とは異なります。シフトによる役割決め又は当日のリーダーが指示する等の役割分担を明確にしておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分配慮し、日常生活においても自尊心や、プライバシーを守るように職員の意識向上を図っています。	職員は、入居者の苗字にさん付けで呼ばれているが、本人の希望で呼称を使う場合は、馴れ馴れしくならないよう配慮されている。接遇マナー研修を受講し、資格取得を目指すほか、各種研修も随時受講されている。外部からの面会者については、一旦家族へ連絡し、面会可能か確認する等の配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、日々の生活の中で希望を聞き、いくつかの選択肢の中から自分で決められる場面を作るように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、時間を区切った過ごし方はされないように努めています。体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室があり、入居者のご希望やご家族の希望により、カット等のサービスをご利用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食やメニューも豊富なのでとても楽しみにされています。入居者と職員が同じものを食べて、食事の話題等で楽しい雰囲気のもとで食事が出来ています。	嗜好調査は外注の業者が行い、一か月分のメニューを決め、入居者個々の状態に応じた食事を提供されている。一ヶ月に一度管理者と外注業者で給食会議を行い、入居者の希望なども含め調整されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回、服薬時にチェックし、食事量、内容、形態については、ご本人やご家族、主治医の意見を参考にしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のチェックを行い、利用者の状態に合わせて、歯磨き、義歯の手入れなどの支援を行っています。随時訪問歯科医との連携も図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の一人一人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行なうようにしています。	日中は排泄パターンの把握に努め、入居者の仕草や動作を見て判断し、トイレ誘導の声掛けを行い、自立に向けた支援に努められている。失禁時はプライバシーに配慮し、周囲に悟られないよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便状況の確認を行っています。また、自然排便を促すように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧測定、体温を測り、健康状態をみながら、入居者の意向に沿って入浴を支援するように努めています。	月火木金が入浴日で、入浴チェック表に沿って週二回午前中の中の入浴である。拒否や体調不良で変更する場合は、入居者と話し合い調整されている。入浴剤を使用されており、入浴を楽しめるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、入居者の体調や生活リズムを整えるように努めています。また、個別に対応して休息できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルして、職員が把握できるようにしています。服薬確認も徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、趣味活動が行えるように、配慮しています。また、散歩に出る等の気分転換を行なうようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候のよい時には散歩に出かけたり、職員と一緒に戸外に出られ、公園の季節の花を見たりされています。	買い物ツアーとして数名ずつ近隣スーパーへの外出や好天時にホーム周辺の散策のほか、隣接の小規模多機能ホームのレクリエーション参加等、外出する機会を持つよう努められている。馴染みの美容室へ家族と一緒に行く入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に金銭管理を御願ひしております。お買物については一緒に行くなど、買物の希望に沿うように努力しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は常に可能であり、希望があれば支援しています。手紙のやり取りは希望があれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事等の写真を貼ったり、観葉植物を置くなどしています。また、居間にはソファを置いてくつろいでいただけるように配慮しています。	リビング兼食堂は車椅子の通行に支障がないように動線を確保したテーブル配置がなされ、団欒の場としてソファも設置されている。日中は日当たりがよく開放的な窓があり、明るく、水道音、食器洗いの音、食事の香り等、生活感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子やテーブルを置き、絵画や観葉植物を配置し、居心地の良い環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持ってきていただく等して、安心して過ごしていただけるように配慮しています。	居室には大きな窓があり、明るく、職員による室温、湿度管理、時間を見ての窓の開閉がなされ、清潔感があり、過ごしやすいものと思われる。入居者は馴染みの品など自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に変化があれば、その都度職員同士で話し合い、自立して生活が送れるように支援しています。		